

【事業所概要(事業所記入)】(ユニット1階)

事業所番号	2792600070		
法人名	株式会社 エフ・エム・シー介護サービス		
事業所名	FMCグループホーム一番町		
所在地	大阪府門真市一番町6番7号		
自己評価作成日	平成30年1月14日	評価結果市町村受理日	平成30年3月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪府中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階		
訪問調査日	平成30年2月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「すべての認知症高齢者に対し尊敬の意を持ち、受け入れること」が介護支援の根本と考えており、介護スタッフにおいては「生き生きと元気に楽しい共同生活」及び「さりげなく優しく、さりげなく見守る」といった認知症高齢者主体の介護を行うべく日々努力を重ねております。事業にあたっては、「笑顔で心穏やかに、時には思いを打ち明け一緒に涙できる環境づくり」を目指し、地域住民との関係性の向上、並びに地域内連携を綿密に図りながら行政との連携に努め、地域の一員として高齢者の方々の力に成るべく努めております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当グループホームは、大阪府寝屋川、門真を中心にグループホーム、小規模多機能ホーム等数カ所の介護施設を運営する「株式会社エフ・エム・シー介護サービス」のグループホームである。開設後ほぼ6年になる。利用者の尊厳とその人らしさを尊重して介護している。管理者は自身看護師である関係で医療との連携のもとに利用者の健康管理に力を注ぎつつ、家族も共に楽しむホームとしたと考えている。毎月行われる事業所行事には家族にも案内し、参加を勧誘している。利用者が主になって職員はサポート側になっているものが多い。パーベキュー、夏祭り、焼き芋、節分、クリスマスではハンドベル、これは今も継続練習中である。これらが利用者により新しい生甲斐をもたらしている。「ここに入所してから活き活きしている」と述懐する家族もある。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	新たな介護理念「あなたの笑顔が見たいから」を掲げ、利用者様とご家族の心からの笑顔が見られるようなサービスを提供できるよう努めています。	「利用者と家族の安心、利用者と家族の想いを支える、利用者と家族の心からの笑顔を見ること」を理念とし、それらを実現するための10か条を制定し、地域住民との関係性の向上、地域との連携を綿密にしながら実現に励んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	入居者が地元地域の催し物に参加したり、ホームで催し物する場合には地域の方々から案内状を出して参加して頂くようにしています。	地域の夏祭りに参加し、幼稚園児の訪問を受け、事業所の祭りには、家族と共に地域住民を招待し地域との交流を深めている。事業所の職員が地域の祭りの準備を手伝い、又近くの公園の清掃を利用者で行う旨を申し入れ、地域との連携に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	行事や運営推進会議の際に、施設の現状や、入居者様の認知症についての話をし、理解して頂けるように努めています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を定期的実施し、入居者様や家族様、地域の方々からの意見を参考に、より良いケアを実践し、積極的に取り組んでいます。	会議は地域包括支援センター職員、民生委員児童委員、知見者、家族、と事業所館長、管理者で2カ月毎に開催している。会議は双方向的で参加者から活発な意見提案もあり、運営に反映させている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	生活保護の入居者の方も居られ、市町村担当者と密に連絡を取り合い協力関係を築くように取り組んでいます。	市の生活保護課、くすのき連合の担当部署とは折に触れ連絡を取り、報告や、相談を行い、指導、助言を受け、協力関係の構築に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホームが車通りの多い立地にある等の理由から、利用者様の安全を考慮し、玄関の扉等を施錠しています。身体拘束の勉強会を行い、拘束を行わないケアに取り組んでいます。	職員は身体拘束の具体的な行為は研修等で正しく理解し、拘束を行わない介護に努めている。スピーチロックも同様であり、不適切な言動があれば職員同士でも注意し合う体制もある。玄関扉は利用者の安全を考慮し、家族の了解の上で施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての勉強会を行い、フロア会議の際に事故報告の検証をし、話し合いをしています。またスタッフ間でも、言葉使いや介助に対して、注意し合い、防止する様に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用されている入居者様があり、詳しく学ぶ為に勉強会等を行い、皆で理解出来る様に努めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書・入居契約書・看取り契約書等を理解・納得して頂けるまで、わかりやすく説明を行う様に努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を入口に設置しています。運営推進会議を開催時には、利用者様・家族様にも参加して頂き、出された意見や要望を反映できるよう努めています。また、面会時にご家族様から直接意見を頂戴することがあります。	利用者の意向は毎日の生活する中で話し合い、態度、表情などで把握し、家族の意見は、訪問時に利用者の日常を伝え、意見希望を聴くようにしている。家族には毎月写真とコメントをつけて利用者の状況報告を郵送し、訪問の少ない家族にはその後に電話で連絡し意向を聴くようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から、業務に関する意見や提案等を、スタッフ全員が話しやすい環境になる様に心掛けており、毎月、会議の際にも意見を聞く機会を設け、反映出来る様に取り組んでいます。	毎月フロアごとに、全員参加のスタッフ会議を開き、意見、提案を聴いている。介護計画の意見が多く直ちに運営に反映させている。また館長が個人面談を年1回行い、意向の吸収に努めている。年1回全員自己評価を行いスキルアップにもつなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の努力や実績、勤務状況を把握し、やりがいや向上心を持って働ける様な環境作りに努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々のスキルを把握し、出来るまで丁寧に指導を行う様にしています。また、毎月勉強会を実施したり、外部研修に参加したりと、スキル向上にも取り組んでいます。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修等に参加し、同業者の方々との交流を行う事で、サービスの質の向上に努めています。また親睦会に参加し、お互いの情報交換をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族、ご本人から話を聞き、安心して過ごして頂ける様努めています。認知症により正確な訴えが困難な方の場合には、表情や仕草から読み取るようにしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の困っている事や、不安な事、要望等に耳を傾け、また話しやすい環境を大切に、入居者様を安心して頂ける様な関係づくりに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者様とご家族様が必要としている支援を、初期面談時にじっくりと話し合い、可能な範囲で対応を行っています。また、要望があれば、その都度対応しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様の認知度や身体状態を考慮し、その方に合った手伝い(洗濯物をたたむ、食器拭き、テーブル拭き、おやつ作り)等をして頂き、共に生活している事を実感して頂ける様に取り組んでいます。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様の面会時には、状況の報告や説明を行い、また入居者様とご家族の絆も大切にし、共に入居者様を支えて頂ける様に取り組んでいます。夏祭りやクリスマス会にはご家族を招いて同じ時間を過ごしていただきます。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者様が大切にしてきた馴染みの人や場所に関して、可能な範囲で関係を維持し、途切れないよう様に努めています。知人や友人が面会に来られる方もあります。	友人知己の訪問もたまにあり、気安く来訪できるよう支援している。馴染みの店への買い物などに散歩を兼ねて出かける。そこで、馴染みの人に会うこともあり、地域での関係継続の支援がなされている。美容院や理髪店も利用者の希望に沿った支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様が孤立しない様に、スタッフが間に入り、関係を取り持ち、入居者様同士が関わりを持って、支えられるような支援になる様に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	看取りで亡くなった利用者様がありましたが、ご夫婦で入居されているため、残された利用者様のフォローに気を配っています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居以前の生活習慣の把握に努め、可能な範囲で、その方の希望を受け入れる様にしています。どうしても困難な場合は、ご本人に説明し、代替え案を提案し納得して頂ける様に、検討し実施するようにしています。	入居の際に家族から聞き取った利用者の生活歴や思い、希望を把握し、また、毎日生活する中で把握した意向に沿うよう努めている。何れも本人本位で、考えている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族様から情報収集をし、その方のこれまでの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、サービス利用の経過等の把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日の心身の状態に応じ、日課やレクリエーションをして頂いたり、体調を考慮し、その人らしい日を過ごして頂く様にしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月、フロアー会議にてケアカンファレンスを行い、より良く暮らす為の課題やケアのあり方に関して話し合いをしています。それをケアプランに反映できておらず、ご家族に十分な説明ができていないことが課題です。	毎月行われる各フロアー毎のスタッフ会議の後ケアカンファレンスは行われているので、症状に変化があれば介護計画の見直しもあるが、変化のない場合は短期も長期も見直しは行われていない。	介護計画は短期長期と折々の見直し求められる。担当者や家族で、時には医師の所見も含めて、よりよく暮らすためのケアを見直すことも期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を細かく記録に残し、職員間で情報を共有しながら、会議時やその都度話し合いを行い、より良いケアを実践し介護計画の見直しに活かせる様に、取り組んでいます。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	歯科往診、訪問カット、整骨院を利用するなど、本人様やご家族様の希望に合わせて対応しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くのコンビニやスーパーに買い物に行ったり、ドライブにいたり近隣の公園等に散歩に行く機会を作り、楽しんで生活して頂けるように努めています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携の病院から、月2回の往診があり、歯科往診は毎週火曜日にあります。本人様やご家族様の希望を尊重し、適切な医療を提供出来る様に努め、特変時はすぐにDrに連絡し対応をして頂いています。	入居時にかかりつけ医を決めるのは自由である。多くは事業所の協力医療機関をかかりつけ医とすることに同意し、月2回の往診を受けている。従来からの医療機関からも同じく2回往診を受けている。歯科医は毎週、管理者が看護師なので、適宜健康管理は行われていて、利用者に不安はない。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	管理者が看護師の為、日々の状態の報告、相談をこまめにし、指示の下対応を行う事で適切な看護や受診が行える様に努めています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院された際には、安心して治療が出来る様に、しっかりと情報提供を行い、退院時には、サマリーや看護情報を頂く様にしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に看取りについて説明を行い、必要な段階になった際、気持ちの変化があった際に、意向を踏まえ、ご家族様・主治医・看護師・職員で話し合いを行い、全体で方針を共有し、支援する様に努めています。	入居時に重度化した場合事業所で出来る対応について説明し了解を得て同意書を交わしている。職員も方針を共有している。医師が重度化したと判断した場合再度家族と相談し、希望により看取りも行う。昨年2件の看取りを経験した。本人家族が安心して終末期を迎えることを支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時に備え定期的に勉強会を行い、会議の際に初期対応の確認を行う様にしています。また、消防署から救急隊員が来所し急変時の対応の講習がありました。		
35		○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練を定期的実施しており、全職員が避難誘導について認識できる様、マニュアル作っているが、実際の訓練は緊張感に欠けており今後の課題である。	年2回消防署の指導を受け、避難訓練を行っている。マニュアルに沿って避難経路も確立している。緊急時、近隣居住の職員が緊急出勤することもマニュアルに含まれている。備蓄品は水以外これから準備する予定である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	介護十訓に「利用者様の尊厳とその人らしさを守ります。」と掲げ、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をするように心掛けています。	利用者の尊厳とその人らしさを尊重することは理念形成10か条にも歌われていて、職員の利用者に対する言葉かけや接する態度は誇りを損ねないように心掛けている。羞恥心やプライバシーにも配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	レクリエーションの参加や入浴、散歩等、様々な部分で、本人様の体調や意思・希望を尊重して支援を行っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合で左右せず、1人1人の体調や心身の状態に合わせ、1人1人のペースに沿った対応が出来る様に心掛けています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に、訪問カットを利用する等して、身だしなみを整えて頂いています。外出時には、ご本人様の意向も聞き洋服を決めて頂く等しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備は調理員がいる為行っていませんが、食事のあと片付けは手伝って頂いており、日曜日や行事の際には、利用者と一緒に手作りおやつ等をして楽しんで頂いています。	食材はメニュー付きで業者から届く。専任の調理担当が昼、夜の食事を作り提供している。職員も同じものを一緒に食べている。朝食は早出者か夜勤者が作っている。おやつは利用者も一緒に作り楽しんでいる。時々の行事食は特別メニューで提供され、家族と外食を楽しむこともある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量は記録に残し対応しています。1人1人の状態に合わせ、ミキサー食・刻み食・粥・おにぎりにする等して対応しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	日常的には職員で口腔ケアをしています。週に1回は歯科医と歯科衛生士が来られ専門的な口腔ケアをして頂き、適切な口腔ケアの指示の元行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	必要な方には、定期的にトイレ誘導を実施し、個々にあったパターンや習慣を把握し、それぞれにあった間隔や、その日の状態を考慮し、声掛けや誘導を実施しています。	利用者ごとの排泄リズムを把握し、早目にトイレ誘導し自立排泄を支援している。リハビリパンツから失禁パンツに代えている人が多い。夜間も同様に早目誘導を行っている。おむつ使用者はごく一部の利用者のみである。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因や影響を理解し、便秘傾向の方には、ヨーグルトや食物繊維の多い野菜を摂って頂いたり、水分を勧めたりと個々に応じた予防と対応に努めています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回以上の入浴を実施しており、体調に合わせて調整し、シャワー浴・清拭・足浴を実施しています。また、ゆっくりと気持ちよく入浴して頂ける様に個々に添った支援に取り組んでいます。	夏場は週3回、冬場は週2回の入浴を支援している。日は柔軟に対応している。体調や本人の希望で、日を変えたりシャワー浴、清拭、足浴に変更することもある。拒否される場合は、人を変えたり、時間を変えたりして対応している。ゆず湯などで季節を感じる変化をつけたりして楽しませている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時は、1人1人の習慣の応じて、無理に寝て頂くのではなく、眠くなるまでフロアで過ごして頂いたりしています。また体調の観察をしっかりと行い、体調不良時は、早めに臥床して頂く等の対応を行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の重要性・服薬ミスの怖さを認識したうえで支援にあたり服薬時には日にち・名前を読み上げた上で服用して頂き記録表にサインする様にしています。内服薬等の内容等については、医師・薬剤師・看護師より説明を受けています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	曲を流し、一緒に歌ったり天気の良い日には散歩に出かけたり、外でおやつを召し上がって頂いたりして気分転換して頂き楽しみや張り合いを持った日々を過ごせる様支援を行っています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	1月には、神社に初詣に、春には花見、外食等様々な企画をしています。近くのコンビニやスーパーに買い物に行く等の支援を行っています。	近くの公園へ散歩に、春にはみんなで花見に出かける。希望に沿って時々スーパーへ買い物兼ねた外出を支援している。季節の好い時には車を使って遠出する。緑地や紅葉狩り、外食もあり、利用者を楽しませている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	散歩途中でおやつや、缶ジュースを購入したり、コンビニに行った際はレジでの支払いをご自身でして頂いたりしています。希望される方には、財布にいくらかのお金を入れて持っています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望があれば、電話して頂く様になっています。また、知人へのお手紙を書かれたりする方もおられ、投函する等の支援を行っています。携帯電話や、固定電話を個室に設置される方もおられ、自由に電話をされています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースには、利用者様の作品や写真を飾るなどしています。月毎にカレンダーを作ったり色々な装飾をし、四季折々の季節感を味わって頂ける様対応しています。	食堂兼リビングはゆとりがあり壁際にソファが設置され寛ぎと団欒の空間がある。壁に大きなカレンダーと季節感のある手芸作品が飾られている。玄関、エレベーターホールは気持ちよく来訪者を迎え入れる雰囲気である。照明、温湿度管理も良く、トイレ浴室は清潔に保持されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースにテレビを置きソファに座って観て頂き、リラックスして過ごせる様な空間づくりに努めています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に使用されていた家具を持参されたり、使い慣れた物を居室に置き自分の部屋である事を認識して頂ける様な工夫に努めています。	クローク、電動ベッド、エアコン、照明器具、ナースコールが設置されてある他は、利用者の使い慣れた家具、備品で使いやすく住みやすい部屋となっている。壁に写真や塗り絵などの作品も飾られ、落ち着いた雰囲気の中で従来からの生活の継続性も感じられる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレには大きな文字で表示をし、各個人様の居室にも、表札や名札を貼るなどの工夫をしています。		